



# くば小児科 クリニック

院内報 2009年2月・3月号

## ● 院内版感染症情報 ～2009年第07週 (2/9～2/15)

2008-2009年	第43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	01	02	03	04	05	06	07週
インフルエンザ	0	0	0	0	0	0	0	1	2	3	0	3	3	19	26	24	21
咽頭結膜熱	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
A群溶連菌咽頭炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
感染性胃腸炎	1	0	2	2	4	5	4	10	10	6	9	10	5	5	7	8	4
水痘	0	0	1	1	1	2	2	3	0	2	0	2	2	0	2	0	0
手足口病	1	0	0	0	1	1	1	3	1	1	1	0	0	0	0	0	0
伝染性紅斑	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
突発性発疹	0	0	0	2	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	1	1	0
百日咳	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
風疹	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ヘルパンギーナ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
麻疹	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
流行性耳下腺炎	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	1	0

インフルエンザの流行がもう少し続きそうです。八戸地域では警報レベル（定点あたり30名）には届きませんでした。当院でも2月初めに掛けてピークに達し、その後も緩やかな山が続いています。例年よりも大きな流行にはならない見込みですが、地域・学校によって発生状況が大きく異なるため、3月上旬にかけて地域的な流行が残る可能性があります。検査で検出されていたのは全例A型でしたが、2月に入ってB型も検出され始めています。

インフルエンザは出席停止となる感染症です。もし熱が早く下がって軽く済んだ場合でも、最低でも2日以上熱がなくて全身状態が良くなるまで、目安としては5日以上、できれば1週間くらい休ませるようにして下さい。

その他には、例年この時期に流行するウイルス性胃腸炎（ノロまたはロタウイルス）がみられています。水ぼうそうも1月にはみられていましたが下火です。その他の感染症は目立ちません。3月上旬からスギ花粉の飛散が予想されるため、花粉症の子はできれば2月中に服薬を始めましょう。

## ● インフルエンザのタミフル耐性と当院でのインフルエンザ治療

抗インフルエンザ薬の「タミフル」に耐性のウイルスが増えて「今年のインフルエンザはクスリが効かない」などといった扇動的な報道がみられていますが、当院ではタミフルをほとんど使わずに治療しております。

### タミフル耐性について

- 1) 昨年わずかに検出され、今年全国で高頻度に検出されているタミフル耐性ウイルスは、Aソ連型（H1N1）であり、日本だけでなく世界各国で検出されているH1N1亜型の90%以上がタミフル耐性となっている。
- 2) このタミフル耐性は、タミフルの使い過ぎによって生じたものではなく、海外で野生株の突然変異によって獲得されたものであり、感染性は高い。
- 3) タミフル耐性ウイルスが特に重篤な症状を引き起こすとの報告はない。  
（むしろ今年のインフルエンザは軽症の場合が多い）
- 4) 吸入の抗インフルエンザ薬「リレンザ」の耐性は報告されていない。
- 5) 今シーズン接種したワクチンはタミフル耐性ウイルスにも有効。
- 6) A香港型（H3N2）およびB型ではタミフル耐性は認められていない。
- 7) Aソ連型（ほとんどはタミフル耐性）は全体の1／3程度であったが、その後今年の流行の主流になっている模様。流行の後半ではA香港型やB型などの混合流行が予想されます。
- 8) 県内で検出されたという「タミフル耐性」の検体は全てAソ連型と推測されますが、その他のA香港型やB型の検出情報がないため、現在流行中のウイルスのうちどの程度の割合なのか判断できません。
- 9) インフルエンザウイルスの迅速診断キットではA型かB型かは区別できませんが、A香港型とAソ連型の区別はつきません。
- 10) よって、タミフルの効果が期待できるかどうかは、投与後の経過をみてみないと判断できないことになります。（効かない可能性が高い）
- 11) 今シーズンも、タミフルは0歳児と10代の年長児には原則として投与しないことになっています。

★なお、当院ではインフルエンザに対してタミフルと同等の解熱効果が認められる漢方薬の「麻黄湯」を中心に治療しております。1～9歳の子にはタミフルを使う可能性もありますが、耐性かどうかの予測が不可能なことに加えて、麻黄湯で多くの方は2日前後で解熱しているためほとんど処方していません。

1週間程度の経過の中盤以降で咳込みやタンが多くなり、二峰性の発熱を伴う

場合もあり、その後治っていく経過を辿っています。全体として、急性期が1週間、次の1週間は回復期と考えて、ゆっくり無理せずに治していくようにしましょう。年長児に上記の吸入薬「リレンザ」を処方することも可能ですが、当院では使わずに治っているためまだ処方例はありません。

## ● ヒブ（Hib）ワクチンの予約と入荷状況

前号までにお知らせしてきたヒブワクチン（別紙案内参照）は、当院でも1月より予約および接種を開始しております。現在ヒブワクチンは輸入のみで、全国で予約が集中しているため、一医療機関で毎月3名程度まで優先して入荷するものの、それ以上の場合は翌月以降に待たされる状況にあります。この状態は1年以内には改善するとのことですが、しばらくの間は希望通りのスケジュールで進まない可能性もありますのでご希望の方は早めにご予約下さい。

## ● 入学・入園前に…必要な予防接種はお済みですか

<入園までに>BCG 1回、ポリオ 2回、三種混合 3 + 1 = 4回、MR 1回、できれば水痘、おたふくかぜ、ヒブワクチン

<入学までに>上記に加えてMR 2回目、日本脳炎 2 + 1 = 3回（現在中断状態にありますが、新ワクチンで今年再開の見込みとの情報が入っています）

## ● 2月～3月の診療日、急病診療所、各種教室、相談の予定

2～3月は臨時休診の予定はなく通常どおりの診療になります。急病診療所当番は2月1日(日) 昼、17日(火) 夜、3月1日(日) 昼、21日(土) 夜の各2回です。

赤ちゃん教室は3月14日(土)、育児・子どもの心相談、禁煙外来（保険診療）は随時受け付けております。メール予約システムをご利用下さい。

発行 2009年2月19日 通巻第138号

編集・発行責任者 久芳 康朗

〒031-0823 八戸市湊高台1丁目12-26

TEL 0178-32-1198 FAX 0178-32-1197

<http://www.kuba.gr.jp/>

☆ 当院は「敷地内禁煙」です ☆